

第84回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和2年11月4日（水）

午後7時～午後7時50分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：16名（欠席6名）

傍聴者：1名

1 開 会 石井所長

2 代表あいさつ 大参代表

3 議 題

（1）令和2年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

ア 城山地区まちづくりを考える懇談会のテーマと内容

事務局から資料1について、これまでの主な意見等についての説明と資料2・3について、資料1のこれまでの意見等に基づいたテーマ（案）の説明がされた。その後、資料2（案1）及び資料3（案2）についての検討を行った。その結果、資料3（案2）の内容を高齢者の移動支援の内容だけでなく、移動手段・交通手段全般における懇談となるよう内容を一部修正することとなった。

主な意見

- ・資料2（案1）であると緑区基本計画の説明で終わってしまう。資料3（案2）の方が懇談を深掘りできるのではないかと思う。
- ・資料3（案2）で良いと思うが、取組状況の中に、モデル事業の試行運転がされ、その後どうなったかの記載をしておいたほうが良いのではないか。
- ・高齢者の移動支援の問題だけでなく、城山地区の住民全体の交通利便性、交通手段の話にまで繋げてほしい。
- ・今回の懇談会だけで終わることなく、継続して行政と話し合いができるようにしたい。そのために、漠然とした内容でなく、ある程度的を絞る必要もある。
- ・移動支援に関しては、高齢者だけでなく妊婦や障害者も含めた懇談ができればよいのではないか。
- ・資料3（案2）に賛成であるが、まちづくりは地域が自主的にできるよう仕組みが必要でそのことを含め懇談し、今後も継続して検討していく必要

がある。移動手段全般について、地域全体で行政に頼らず、取り組んでいけるような下地ができるような懇談ができると良い。

イ 城山地区まちづくりを考える懇談会の流れと役割分担（案）

事務局から資料４～７に基づき、懇談会の流れについての説明がされた。その後、当日の役割分担についての確認がされ、次のとおりの役割分担となった。

役割分担

司会進行	八木 副代表
懇談の進行	大参 代表
テーマの説明者	齋藤 委員(高齢者とともに築き支える地域づくり部会長)
閉会宣言	曾根 副代表

(２) 城山地区で具現化していく取組について(部会検討)

全体会では、事務局から各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後解散となった。

【各部会での検討内容】

高齢者ととともに築き支える地域づくり部会

- ・資料９をもとにポスター(案)、チラシ(案)の最終検討を行った。

子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

- ・資料８をもとに前回説明のあったNPO法人コドモ・ワカモノまちingのコロナ禍における取組の提案についての各委員の意見交換を行った。

主な意見

・前回取組の提案説明を受け、危惧していることがある。学校行事では、指導者側が様々な課題などを想定し、それに対してあらゆる方向から十分な準備をしている。子どもがどのような行動をするかを充分想定し準備してから、子どもたちに投げかけている。

いきなり子どもたちに投げかけても意見があがってこないのではないか。この取組では、支援者側があらゆることを準備し、これだけのことができるというものを用意しておく必要がある。子どもたちが単に内容を決めることが主体性ではない。子どもたちが、自ら計画することやそれを実現するために様々な課題をクリアしていく経験が子どもたち

の主体性と考える。こういった取組を実現するためには、クリアしていかなければならない課題が数多くあり、子どもたちが必要であると感じる仕掛けをしていかなければならないので、子どもたちがどれだけ熱意をもって参加するのか疑問。

4月に委員になった際、事務局から当初の取組について説明を受けたことについて、心配点、疑問点などを想定しているのか質問したが、回答がなかった。そういう準備・想定がされない中、取組を行うのは難しい。NPOの立場や行おうとしていることはわかるが、今の世の中の現状、学校現場の状況、子どもたちが置かれている環境を踏まえると課題などをきちんとクリアしてからでないといけないと思う。他の城山地区の小中学校の校長にも確認したが、同様の心配をしていた。

- ・ある程度の準備、想定は必要であると思うが、子どもに関する専門知識もないので十分な想定ができない。そのため、この取組について、まちづくり会議の委員だけで進めていくことは困難と思っており、NPO法人の協力を求めながら実施していくことになる。ある程度の見切り発車は仕方がないと思う。子どもたちを集めることが一番の課題、これは学校を通して周知を図っても同じであるが、学校を通しての参加であると保護者の理解は得やすい。ある程度の想定は必要であるが、実施する中で解決をしたらどうか。実際、やってみないと見えてこない課題もある。

今考えられる課題、疑問点について、NPO法人に投げかけてみてはどうか。

- ・今は昔のような子ども会がなくなっている。育成会はあるが親がある程度のルールを敷いて活動をしている。ある程度のルールは必要であるが、専門家ではないので、子どもたちの行動や考え、課題を全て準備、想定していくことはできないが、やっていく中で1つ1つ解決をしていき取り組んでいったらどうか。だからこそ、NPO法人の力を借りながら取り組んでいったらどうかと考えている。

- ・来年度の実施に向け、今年度はNPO法人と課題や疑問点などを検討したらどうか。

- ・子どもたちをどのように集めるかが一番の課題であり、NPO法人に考えを聞いたらどうか。

・PTA 連絡協議会城山ブロック協議会から選出されている委員の意見も聞いたらどうか。大変参考になるのではないか。次回の会議には出席してもらえよう依頼できないか。

PTA 連絡協議会城山ブロック協議会に情報提供し意見をもらったかどうか。

(3) その他

- ・令和2年度城山地区まちづくりを考える懇談会について、令和2年12月15日(火)午後7時から城山公民館1階大会議室で開催することを確認した。
- ・次回のまちづくり会議について、令和3年1月26日(火)午後7時から城山総合事務所第1別館2階B会議室で開催することを確認した。

4 閉 会 八木副代表

以 上